

## 令和6年度第2回下田市総合教育会議 会議録

開催日時： 令和7年2月26日（火）15時30分～17時00分

場 所： 下田市立中央公民館 大会議室

出席者：

### 【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	山田 貞己
教育委員	宮川 大輝	教育委員	宮内 慎也
教育委員	西川 紀栄	教育委員	佐藤 知佐子

### 【事務局】

学校教育課			
課長	平川 博巳	参事	宇仁 猛
学校教育係長	齋藤 祐樹	こども育成係長	澤地 彩
教育DXアドバイザー	吉田 裕哉		
生涯学習課			
課長	佐々木 豊仁	社会教育係長	坂部 琢
		図書係長	鳥澤 早斗子
企画課			
課長	鈴木 浩之	企画調整係長	鈴木 慈美
主事	藤原 佑紀子		

傍聴者： 報道関係3名

1 開会 15:30

2 あいさつ

・市長

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日も様々な議題がございます。皆さんの活発なご意見に期待申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

・教育長

来週には議会が始まるが平行して公立入試が始まる。中学校は修学旅行が無事終わり、小学校は感謝の集いや年度末の締めくくりの時期に入っている。様々なかたちで充実期を迎えるが、大変慌ただしい時期でもある。会議の議題も来年度に向けてのことが多くあるがよろしく願いしたい。

3 報告事項

(1)姉妹都市ニューポート市訪問について【報告】

・事務局（企画課長）より資料1に基づき報告。

【質疑、意見等】

・教育長

学校の様子はどうか。

・学校教育課参事

昨年度の様子を見ていると充実した活動を発表してその後の活動に生かしていたので、同じように生かしてくれていると思う。

・教育長

コロナ以前の訪問では公式行事が多く続くスケジュールのなかで過ごしてきた子どもたちの話と比べ、今回は十分満喫できた訪問だったように感じる。来年度訪問するときにも公式行事があると思うが、子どもたちが現地を楽しめるようなスケジュールが組めるといいと思う。ホームステイはできたが短かった。子どもたちにとっては緊張すると思うが、どういうコミュニケーションが取れるかや、言葉が通じなくてどうしようというドキドキ感があるが、1週間滞在したら十分溶け込めたことでやって良かったという意見が以前はあった。今回は2泊3日だったのでたして子どもたちにはどうだったかなど。1週間位が良いのか、2泊3日くらいが良いのか、向こうでのスケジュールでの調整になるかと思うが子どもたちの様子を聞いておく必要があると思う。

・教育長

中村議長の感想はどうだったか。詳しい話は聞いていないか。

・企画課長

教育長からのお話と同じで、公式でなかったことから従来は行事に追われる行程であったが、今年は十分現地を見て歩く時間があった。買い物とかも含めて現地を体験することができて雰囲気は非常に良かった。

・教育長

下田市とニューポート市としては公式的な行事をおきたいと思うが、子どもたちから行って楽しかったとか良かったと聞くほうが良い。子どもたちにしてみれば初めての経験なので、公式行事に参加することも驚きや真剣なところを味わうのも必要である。そのあたりの調和が取れると良いと思う。

・宮内委員

ホームステイは緊張すると思う。生活も食も違い、さぞかし緊張のなかでお世話になったのだと思う。生徒にとっては良い経験になったと思う。

・佐藤委員

昔から続く良い取組である。子どもたちにとって英語を使ってこんなことをしたいという考えのひとつになると思う。英検に取り組む子どもたちが年々増えていると話があったので、参加したい子どもがたくさんいるのではないかと思う。

・企画課長

また報告書をご覧ください感想を伺えればと思う。令和7年度についても今年度と同様に10月に中学校生徒4人で参加いただくかたちで調整する。また教育長に参加していただくことで調整している。

## (2) 学校教育の基本方針について

- ・事務局（学校教育課参事）より資料2に基づき報告。

### 【質疑、意見等】

#### ・教育長

小学校在り方検討会議の第1回目を早速やらせていただき、検討会議はあっても再編ありきではないことを前置きしたうえで進めさせていただいた。検討会議のなかでもDX化についての意見があり、学校の規模が小さいからこそ交流活動をしていかなければならないことや、もみ合いや切磋琢磨する場がないのは小規模校の課題なのでその辺の解決に向けてどんなかたちができるか話をした。吉田アドバイザーには来年度活躍してもらいたい。

#### ・宮内委員

在り方検討会と付随するが、前々回の教育委員会定例会でシンガポールの学力が高いのはなぜかという話があり、先生の専門教科を少なくすることで専門性を高め、授業数をカットすることで先生が授業に集中できる環境であることや、小学校では卒業テストがあるとの紹介であった。これから少子高齢化で生徒児童が少なくなるなかで先生には得意な教科を専門的にやっていただきスキルアップして、授業を楽しんでいただき、そういったところで先生方の負担へ減らしてもらい、好きな教科の好きな子どもにしていきたい。

中学校に関しても生徒たちが少なくなってくるなかで批判が出るかもしれないが、1クラスは特進科をつくって、学力重視で勉強一筋でいきたいクラスを設けても良いのではないかと思う。そうすることで普通クラスの子どもも1番になる機会があることで勉強の楽しさが出てくると思う。中学校でもそういう発想があっても良いと思うし、そういう時代が来ても良いのではないかと思う。

#### ・西川委員

下田中学校1年生の参観日では、生徒が体育館に集まってこれからの下田の未来をどうしていきたいかの発表をした。クラス代表で2人ずつ、自分のタブレットを使ってスクリーンに映しながら「僕は、私は、こういう下田にしていきたい」「お菓子を作って商品化してSNSに投稿すればいい」「みんながサッカーを一生懸命やることでサッカーで有名な下田にすればいい」などと発表し、全員が違う考えをしていた。きっと1年生全員が考えてつくったはずなので全員のものを見れたらと思った。みんながこういう風に考えて下田が盛り上げられたらとても良いと思った。

#### ・佐藤委員

交流活動については、せめて小学校学区で交流活動ができないかと思っている。ひとつの学校の人数が減っていきいるなかで、学校で勉強したことやまとめたことをICTを使って他の学校に紹介していく。西川委員が言われた内容でもいいし、普段やっているような授業内容や総合的な学習で体験したことの発表でも良い。それをうまく吉田アドバイザーにつなげていただきたい。先生全員がICTが得意ではないと思うので、できるだけ吉田アドバイザーのような方が間に入ってもらい「こういう活動だったら交流活動に生かせるのではないか」と言っていたきたい。

#### ・宮川委員

今年度からコミュニティスクールが始まり6月はプール、今週も家庭教育学級と一緒に給食を紹介する。学校近くの方へ声掛けに行くと「いつも行きたかった」と言ってくれる

方が結構いた。学校と関わりたくて声を掛けられるのを待っていた人が割といるので地域との連携はきっかけがあればいくらでもできるのではないかという印象を受けた。

・教育長

コミュニティスクールは、今年度は小学校で昨年度は中学校で始まったばかりなので力をつけていくのはこれからだと思う。

SNSの弊害もあるがDXを上手に使うことで学力を向上させるとか、刺激を合せて切磋琢磨してコミュニケーション力を付けるとか、できることはたくさんあると思う。

宮内委員の中学校の特進科との意見は奇抜な発想で驚いたところだが、学力をつけるということにおいては全国学力状況調査で小学校は割と点数が芳しくないが、中学校は上位を占めていて9か年で考えると静岡県は理想的だと個人的には思っている。静岡県の子供たちは地域で活動したり地域との繋がりを持つことについて小学校では全国でも上位であり、下田も似ているところがある。地域にどっぷり漬かりながらいろいろな体験をすることで土台づくりができ、その土台の上で中学校での充実した授業をしてもらい、最終的に義務教育のなかで学力がついていれば良い。そういった意味では宮内委員の望んでいる学力を上げるということではできているのではないかと思う。だからグローバルCITYプロジェクトのなかで体験活動を充実させれば土台作りはできると思うので、今盛んに学校でやっている。交流授業を画像を使ってバーチャルスクールのようにしてやることもひとつの手であるので、来年度に向けての課題だと思う。吉田アドバイザーには先日も教育委員会の会合に入ってもらい、楽しみな方向性があるのではないかと考えている。

・吉田アドバイザー

その話を賀茂地区の教育長の皆さんと弊社の社員がしている。そういう繋がりができればと思う。

・教育長

教員はひとつの学校の人数が少ないことや同じ教科の人数もないことが理由で研修がなかなかできないが、デジタルで交流をすることで研修もできるのでは思う。吉田アドバイザーが入ってくれる前は先生方はデジタルに関する課題だらけだったが、今はその技術は十分備わっているので今度は横の交流をすることでもっと関わりを持ち、点が線になって面になっていければいい。まだ手探りではあるが先が見えているように思う。そういうことも含めて基本方針として盛り込んだ提案がされている。

・市長

素晴らしいと思います。

(3)生涯学習の基本方針について

- ・事務局（生涯学習課長）より資料3に基づき報告。

【質疑、意見等】

・教育長

取組1のところではスポーツに関することがあるがスポーツ関係となると小学生も中学生も関わるところがある。ただ、生涯学習課も行事や事業が多いので大変だと思う。

西川委員は読み聞かせでしたか、やっていますね。

・須藤隊員

下田小学校だけだが、子どもが本を読みたくなるようなポップを作ったり、季節に応じて壁を飾ったり、壊れた本を直したりするお手伝いをしている。

下田小学校の子どもたちは本を積極的に読んでいると感じている。

・教育長

学校の図書室が充実している。図書司書さんと図書館が連携してくれていて有り難い。大きな図書館ではないので、まちじゅう図書館や移動図書館を活用してもらえるシステムをどんどん構築していかないと宝の持ち腐れで終わってしまってもったいない。まちじゅう図書館も30軒くらいお願いするとのことだったが、現実的には厳しかった。

・生涯学習課長

まちじゅう図書館の館長さんに聞き取り調査をしたが、ただ本が置いてあるだけではなかなか魅力的なものにならないなど様々な意見をいただいた。定期的に館長さんと話をしながら、少しでもお店に合ったものやテーマを作るなど特徴を出したそれぞれのまちじゅう図書館をつくらなければならないと痛感しているところである。

・教育長

最初は5軒やって下さったがなかなか手に取る市民はおらず、観光客が見てくれるくらいであった。しかし本のある環境は決して悪くはない。受け入れてくれるところが増えていくといいなど思っているがなかなか見つからない。

・生涯学習課長

民間の方が進めている子ども図書館と連携してマップを作ろうという計画をしている。民間の力も借りながら普及させていきたい。

・市長

まちじゅう図書館はある意味、図書館施設のハードが不十分なものを何とかお返ししようとしたもの。一方でニーズはあるのかというところで、子どもたちにとってのニーズを掘り起こすことも大事だと思った。昔は名作を読むのがひとつのパターンであったが、今は売れ筋や話題の本がいつでもネットですぐ届く環境である。こうしたアクセスがしやすい時代は子どもたちにとっては本を読みたいという要求がげんなりしてしまう。アプローチの仕方が古かったかなと反省をしているところだが入口のハードルを低くすることで、どのようにして子どもたちに名作を読んでもらうか、大人の正直なやり方よりも、もう一工夫が必要である。

・教育長

本のある環境だけでも良い。図鑑とか子どもが好きと思う本を読めばと思う。まちじゅう図書館にしてもいろいろな場所に本があるという環境になると良い。なかなか図書館数は増えない状況ではあるが、お願いしてそのままではなく協力してくれる人たちを大事にしたい。

・市長

感想文コンクールをやってはどうか。例えばまちじゅう図書館ごとに感想文コンクールをやってもらい、毎年優勝者を決めて表彰したらどうか。

・教育長

ひとつの発想だと思うがそれぞれの現場に行ってみると、かなりハードルが高い状況である。

・佐藤委員

マップ作りはとてもいいと思う。こういう取組を知らない方もたくさんいるので SNS や広報しもだを活用してお知らせし、皆さんに手にとっていただくことを増やしていくことがまず大事かと思う。生涯学習の基本方針の基盤整備の中にも ICT 機器の計画や整備の記載もあるので活用していったら良いのではないかと思う。

(4) 今後の図書館のあり方について

- ・事務局（生涯学習課長）より資料4に基づき報告。

【質疑、意見等】

・教育長

中央公民館の1階は執務室の他に倉庫があり、かなりの広さである。

・生涯学習課長

河津町の図書館は 650 m<sup>2</sup>、中央公民館1階は 550 m<sup>2</sup>である。今後、考えが進めばどういった活用がいいのか、またスペースを有効活用できる提案を専門の方にしてもらおうと考えている。

・教育長

以前、日本大学の学生たちが想像力を働かせて様々な提案をしてくれた。そういう発想をうまく生かしていただけたらと思う。仮に移転場所が中央公民館になった場合、反対意見を持つ人に意見を求めるなどして巻き込んでいきたい。

・生涯学習課長

利用する人だけでなく利用しない人にも話を聞きたい。図書館に来ない理由を聞く機会を設けたい。

・宮川委員

図書館が移転するときには相当数の本を廃棄することになると思う。専門書と実用書の割合を専門の人に勘案してもらい本を整理したほうが良い。

・生涯学習課長

最近は電子図書等、電子化も進んでいるので活用しながら検討していきたい。

・宮内委員

大賀茂小学校を訪問した際、図書室がとても綺麗で本を販売しているかのようで、インテリアや本の置き方を考えられているように思った。図書館を見ると入ろうという意識にはならず、また駐車場がないことは一番の課題だと思う。中央公民館へ移転できれば駐車場もあるし、カフェや自動販売機等の設置、会議室に大型のスクリーンをおいて下田の歴史を流しても良いと思う。現状の図書館の外壁に絵を書くなど見直したらどうか。

・教育長

図書館は入ると職員の人たちが丁寧なレイアウトをしてくれている。他の方々も協力してくれカウンター前には陶芸家の作品があったり日露の掲示がしてある。施設の中はとても丁寧な経営をしてくれており、いつも行く人にはわかるが中の様子を知らない人が多い。宣伝をもっとしても良いと思う。

・市長

公共建築が人口減少のため余ってきており、また公共機能を新庁舎へ集めようとしているのでますます余るようになる。余っているものを有効利用しようという考え方はとても良い。ファサードという言い方をするが正面の雰囲気を手を加えるだけでイメージが変わる。昔の建物は虚飾を排しているところがあるので、ほんの少し手を加えることで格好良くなり、入りたくなるような図書館になる。更に蔦屋書店のようにコーヒーが飲めたり多少のお菓子が食べれるなど図書館の中の自由度を上げることで、子どもたちが気楽に友達と一緒に本を読めるようになればとても良い空間に生まれ変わると思う。また駐車場も重要ではあるが、場合によっては芝生広場を造り、晴れた日は子どもたちが絵本を読んだりできたら更に良い空間になると思う。

重要な資料については河内庁舎のような津波リスクの低い場所へ避難させることも早急に検討すべきである。

4 閉会 17:00